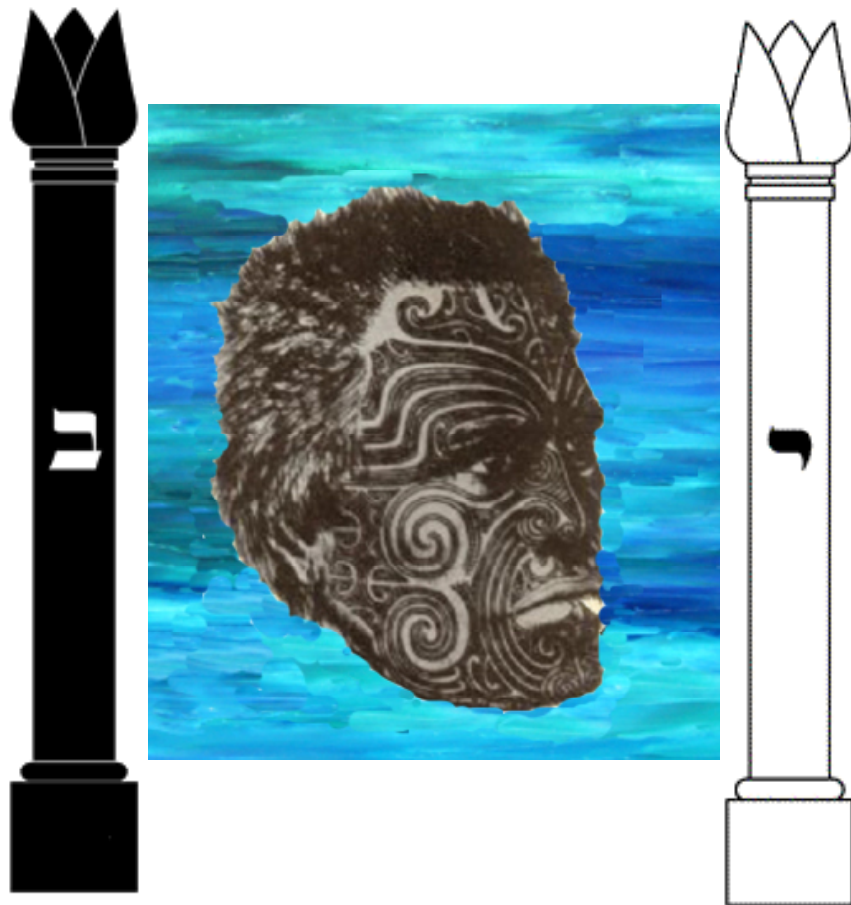


春 分 儀 式

I O S 儀式魔術文書 VE08A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE VERNAL EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。2008年の春分点通過は3月20日(木)14時57分(日本標準時)である。儀式内容は、起誓言の公式を利用して春分の祝祭を実施する。

1 魔術とタトゥー

(1) 歴史的なタトゥー

サハラ砂漠に残る洞窟には人体に斑や鱗状の彩色を施した数千年前の原始的な壁画が描かれている。人間は自らの肌身を磨き彩る生き物である。⁽¹⁾ その方法には我々にも馴染み深い染料を使用した化粧(顔と身体)、ベルベル族の女性が邪視を避けるために使っていたヘナ、⁽²⁾ 刺突文身(puncture)、瘢痕傷身(scarification)、頭骨変形、耳飾り(鼻輪、口唇飾り)、割礼、四肢変形など多種多様である。⁽³⁾



古代エジプトのセティー 世の墓所からは文身を入れた貴人たちの壁画が発見されている。⁽⁴⁾

シベリア最大のオビ河上流にあるアルタイ山中のパジリク第2号墳墓(いわゆる凍結墳墓)から1947年に発見された男性の遺体には、胸から背中にかけて、グリフィン、山羊、鹿、魚などが絡み合う鮮明な文身が発見された。⁽⁵⁾

これらの墳墓は盗掘にあい、その盗掘坑から雨水が流れ込み墳墓全体を水没させたあと、冬季に氷漬けになった。しかも盗掘坑自体は再び土石で埋まったため、これらの墳墓は凍結したまま保存されたのである。⁽⁶⁾

実は日本人の祖先も文身を入れていた。『魏志倭人伝』(三国志中の『魏書』)における「男子は大小となく皆面に黠(イレズミ)し、身に文(イレズミ)する。」という記述や、神武天皇の御代に「鯨ける利目」とイケヨリ姫と呼ばれた貴人の風体を描写した『古事記』などに記録が残っている。平安時代になって、日常的に呪術的防御を必要としなくなってから入れ墨が行われなくなったという説もある。⁽⁷⁾

アイヌは比較的最近まで魔除けの文身をしていた。かれらの信仰によれば、神々は文身をしており、悪魔が怖がるので文身を入れるのだという。⁽⁸⁾

いわゆるボディ・ペインティングとタトゥーを行う動機については、性的誘惑に関する説明と魔術的な説明がつきまとう。⁽⁹⁾ タトゥー等の身体装飾は、出産などの呪術的防御のために行われるとともに、祭礼の装飾など様々な儀礼において使用された。⁽¹⁰⁾



(1) Karl Groning, *Body Decorated*, New York : The Vendome Press, 1998, pp.18ff.

(2) ガダラ&イヴラヒム 『はじめてのヘナ・タトゥー』、岳陽社、2002年、7、8頁。

(3) 吉岡郁夫 『身体の文化人類学』、雄山閣出版、1989年、6-50頁。

(4) W.D.Hambly, *The History of Tattooing and its Significance*, London : H. F. & G. Witherby, 1925, p.105.

(5) 山本芳美、前掲書、71頁。

(6) 林 俊雄 『グリフィンの飛翔 - 聖獣からみた文化交流 - 』、創生社、2006年、187-188頁。

(7) 山本芳美 『イレズミの世界』、河出書房新社、2005年、77-88頁。

(8) 吉岡郁夫 『いれずみ(文身)の人類学』 雄山閣出版、1996年、113-114頁。

(9) Robert Brain, *The Decorated Body*, New York : Harper & Row Publisher, 1979, p.134.

(10) Victoria Ebin, *The Body Decorated*, New York : Thames and Hudson, 1979, pp.62-81,

(2) ニューエイジのタトゥー

マーゴ・デメロは自著『記述する身体』において、1970年代から勃興したニューエイジ運動とタトゥーの思想的近縁性に着目し、「自己は変容(変革)できる」というニューエイジの主張を、タトゥー愛好者が取り込んでいった過程を論述した。⁽¹¹⁾

特にネオペイガニズムにおける女神崇拜の旗手スターホークらの思想が、いかにタトゥー愛好者の共感を得て、かれらがフェミニズム・ウィッカの用語でタトゥーを語り、その意味を魔術的文脈のなかで解釈しようとしたかを説明した。⁽¹²⁾

そのなかには、タトゥーを彫る行為自体を儀式として考え女友達に周囲を固めて、テンションを高めたものもある。⁽¹³⁾

(3) 魔術的なタトゥー

米国ではマドンナをはじめとするハリウッド・スター多数が商業主義のカバラに帰依したため、カバラ(レッド)ストリングなどの呪術のカバラが蔓延した。その影響もあって、ヘブル語の名前のタトゥーが増えてきた。たとえばお騒がせ女優のプリトニーは首の後ろ、髪が生え際に「癒しの力」という意味の魔術的字句を刻んでいる。日本では古来、主に火消しの兄さんたちの間で、頭髪を剃って梵字を彫り込むのが流行っていた。⁽¹⁴⁾ その影響もあるのかもしれない。しかし、十分な知識もない彫り師がヘブル語の綴りをミスをした例も多々散見する。

とは言え、そもそも正当派のユダヤ教徒にとってイレズミをすること自体が禁じられていた。

「死人のために身を傷つけてはならない。また、身にイレズミをしてはならない。」(『レビ記』19章28)とあるからだ。

しかし、前述したように伝統と無縁のニューエイジのオカルティストは、自らの人体の祭壇化を図り様々なものをタトゥーの図案に変えた。ヘブル語の神聖名などは、「自己展開する神の言葉」として最強のタトゥーになり得るのだ。肉体の表面に必要に応じて召喚できるアイン・ソフに直結したエネルギーの凝集体が色づいている様子を想像してもらいたい。⁽¹⁵⁾

あえて禁忌に触れる必要もないので、ここでは単に紋章等の象徴群をタトゥーとする場合を想定しよう。

カバリストにおいてもタトゥーではなくボディペインティングは許容される場合がある。実践的にも彫り込めば消せないヘブル語の名前は、儀式的目的が異なると反作用や、障害となる場合があるので、その都度、書き込んで消せるボディペインティングは効率がよい。

神聖名を直接肉体に書き込むことは、高度な記号論的行為であり、ゴーレムの額に刻まれた文字のように魔術的な保護を働かせる。聖なる名前の書き込まれた肉体は聖体となる。名前を表象する印は、その聖体の封印となる。⁽¹⁶⁾

そして、ラビ・ザドク・ハ・コーヘンの言うように神に集中し、全ての人生を神の唯一性の感覚に満ちし、いついかなるときも神がわれらとともにあることを知るように仕向けること、つまり全人生の瞑想化を達成する重要な手段となり得るのである。⁽¹⁷⁾



(11) 危地においてタリズマンとして働くようであり、肉体と靈魂を結びつけ、タトゥーを彫る過程は社会的疎外感を克服する通過儀礼ともなり得る等々 (Margo DeMello, *Bodies of Inscription: A cultural history of the modern tattoo community*, Durham: Duke University Press, 2000, p.146.).

(12) DeMello, 2000, op. cit. pp.147f.

(13) op.cit., p.163.

(14) 紀田伊輔 『TATTOO STYLE BOOK』、情報センター出版局、19年、133頁。

(15) ゲルショム・ショーレム 「神の名とカバラの言語理論」、『エラノス叢書9 言葉と創造』、平凡社、1995年、124頁。

(16) Naomi Janowitz, *Icons of Power: Ritual Practices in Late Antiquity*, University Park: The Pennsylvania State University Press, 2002, p.80.

(17) Rabbi Alan Brill, "The Hierarchy of Jewish Meditation", in *Meditation from Heart of Judaism*, Woodstock: Jewish Lifgts Publishing, p.95.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P C は、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い、白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハリエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオーン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。

(2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) 封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印 (M t w x) 」は護符 (amulets) に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。⁽¹⁸⁾

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。⁽¹⁹⁾

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。

「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈祷する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」⁽²⁰⁾

(2) 聖四文字の呼吸

バル・シェム・トブの弟子であったクロノスのラビ・ハイムは、建物の間に張り巡らされたロープの上で踊る男を弟子たちと一緒に眺めていた。弟子たちはこのサーカス紛いの見せ物をどう思うかと師に尋ねた。

ラビは、男が何のために生命を危険に晒しているのか判らないが、高い綱の上にいる間は、芸で得る賃金を考えることはできないし、今、正に踏み出した一歩や、次に踏み出すだろう一歩を考えることはできない。どこにいるかさえ考えることはできず、もし、我に返れば死の深みに落ちてしまうだろう。男は全く自分に気づいていないのだ。と答えた。⁽²¹⁾

ラビ・ハイムは、卑俗な芸人のなかに「心を無にする」行為の実践例を示した。

心を止めるということに関しては、メズリッチのラビ・ドブ・バエルは、律法を教える最良の方法は、世界の声自分が自分を介してどのように語るかを聞く耳になり、（世界の声を代弁する）自分の声を聞き、そして止まることだと示した。⁽²²⁾

神の最も根源的な名前、シェモート・エメスは、聖四文字 hwhy と「燃える柴」のエピソ

(18) Janowitz, *Icons of Power*, pp.79f.

(19) Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp.231, 280.

(20) Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p.317f.

(21) Martin Buber, *Tales of Hasidim : The Early Masters*, New York : Schocken Books, 1947, p.174.

(22) Martin Buber, *Hasidism and Modern Man*, Far Hills : Horizon Press, 1966, p.195.

ードにおける hyh) である。

エリッヒ・ノイマンは、人間の自己と自我の対比を聖名エヘイエーの上で解釈した。

もとより、エヘイエー・アシェル・エヘイエーを「われは、われあり なり」と解釈するとき、その意味は「われあり」=「自己」と「われはわれありなり」=「自我」とのせめぎ合いを導出する。そして、「われありなり」という意識の一点は、あたかも凝固した一閃のように時間外的意識であって、「自己」の側から見れば没時間的に存在し、「自我」の側から見れば時間的経過のなかで時間のなかに入ってくるものである。⁽²³⁾

イユーン学派はこの二つの最重要の神聖名が四種類の文字から構成されることを重視し、それらを再構成してひとつの神聖名を作り出した。

hwhy (ヨド・ヘー・ヴァウ・ヘー) }
hyh) (アレフ・ヘー・ヨド・ヘー) } ywh) (アレフ・ヘー・ヴァウ・ヨド)

かれらの主張によれば、四つの子音アレフ・ヘー・ヴァウ・ヨドは、ヘブル語では母音字 (matres rectionis) として用いられるが、同時にアヘヴィーという神聖名を形成する。かれらの教えを集約した『セフェル・ハ・イッユーン』によれば、アヘヴィーは指輪に封じ込められた名前であり、大地そのものがこの指輪で封印された。アヘヴィーの数は22、つまりヘブル語アレフベートを包摂し、この名前からヨド・ヘー・ヴァウ・ヘーとエヘイエーの2大神聖名が創造されたという。アブラハム・アブラフィアはこの名前を「秘匿文字」と呼んだ。何故なら、いかなる正典偽典にも現れず、注意深く隠された名前であるからだ。⁽²⁴⁾

さらに先鋭的な主張によれば、このアヘヴィーを逆転させた名前ヨド・ヘー・ヴァウ・アレフ ()why) こそ、宇宙創造より前の神の真実の名前であって、所謂「聖四文字」のヨド・ヘー・ヴァウ・ヘーとは、この世界を創造するという目的のためだけに使用された「真の聖四文字」の代用品であるというものだ。⁽²⁵⁾

イッユーン学派の「真の聖四文字」と一般に流布している「聖四文字」は、末尾の文字がヘーからアレフに変わっただけである。イッユーン学派の『四文字の名前に関する解説』には奇妙な説明がなされている。

ラビ・ユダ・ベン・ベテイラーが仲間たちと、三年間『セフェル・イエツィラー』について学んだとき、アレフベートの組合わせ操作のなかで人間を準創造した。その額にはヘブル文字で、tm) Myhl) hwhy と書かれていた。そこでラビはただちに文字エメスのアレフを消し、メス(死)とした。これは典型的なゴーレムの制作挿話のようだが、アレフを消した理由を問われてラビは秘教的知識の隠匿に関する講義を行う。⁽²⁶⁾

盲目のイサクの弟子アシェル・ベン・ダビドは『シェム・ハ・メフォラシュの解説』において、アレフとヨドの関係について詳述した。

子音アレフは母音を発声する際の喉頭の声の起点であり、アレフベート系列の始まり、究極的には発声される個々の音がそれに由来する要素にあたる。

アレフの活動とは、いまだ声なき音声の起点の活動から、いかにして神聖名が、それに続きすべての言語が起こるのかという考察に結びつく。アレフ自体は、この展開のなかにおいて、たとえ消えゆくとはいえ、なおもすべての語りのゼロの点、「神の等価を示す指針」であり続ける。⁽²⁷⁾

また、アレフは「無限にまでの高み」(Pws Ny) d(Mwrh) とも、「無限にまでの意志」とも呼ばれ、第一のセフィラ、ケテルを示す。⁽²⁸⁾

イッユーン学派の見解は特殊なものであり、一般化しなかった。また、真実であれば一般化することを許されない秘教のなかの秘教たるものである。

バルディチェブのラビ・レヴィ・イーチャクの見解によれば、聖四文字 hwhy の前半の二

(23) エリッヒ・ノイマン「生きることの意味と個人」『エラノス叢書4 人間のイメージ』、平凡社、1991年、145-148頁。

(24) ゲルショム・ショーレム「神の名とカバラーの言語理論」、『エラノス叢書9 言葉と創造』、平凡社、1995年、119-120頁。

(25) ショーレム前掲書、122頁。

(26) Joseph Dan, "The 'Iyyun Circle" in *The Early Kabbalah*, Mahwah: Paulist Press, 1986, p.54f.

(27) ショーレム前掲書、116-119頁。

(28) ゲルショム・ショーレム「初期カバラーにおける聖書の神とプロティノスの神の戦い」『エラノス叢書10 創造の形態学』、平凡社、1990年、264頁。

文字 hy は「無の性質」を、後半の二文字 hw は「有の性質」を表す。「有の性質」は、われわれが自然界と認知する存在の階層をあらわす。そして、「無の性質」は、霊的世界と認知する存在の階層をあらわす。従って、物質界において hy の意識を獲得すれば、物質を超越することができる。

また、ベリマー (hmylb) という単語は、「なし」という意味のベリ (ylb) と「何か」という意味のマー (hm) を結びつけた単語であり、旧約聖書の中ではただ一か所 (『ヨブ記』26章7) に使われている。その意味は「何ものもなし」となる。

『セフェル・イエツィラー』においてはセフィロト・ベリマーとして十の原数として現された。その際、ベリマーはアイン・ソフと同義と解釈される。⁽²⁹⁾

一方、カバラの思弁的宇宙論のなかで、「無」を意味する単語はアイン (Ny)) であり、これは「無限」を意味するアイン・ソフ (Pws Ny)) と同義である。⁽³⁰⁾

勿論、微細な人間の視点に立てば両者は異なる。ヘロナのアズリエルは1230年に示した所信は、創造とは「かれ (神) が かれの無を かれの有に為した」ことであり、決して「かれ (神) は無から有をつくった」とは言わないのである。⁽³¹⁾

そして、すべての存在は神の存在に由来するため「存在を成り立たしめる実体の光」たるアイン・ソフ・オール (rw) Pws Ny)) は拡散して原光に至り、その原光は単に無として表されるのである。⁽³²⁾

人が「無」を想起するのは難しいが、マギド・ダブ・ラブ・ヤーコブは「無」と「神性」との「間にあるもの (in-between) 」に集中することが、「アイン体験」を得る手段であると教えた。⁽³³⁾

多言を費やしたが、所詮、「無」を体験することは、推論的思惟ではなく直観の領域に属する。この神そのもののたる神秘的な無に関する直観を得ることが大切なのだ。⁽³⁴⁾

そこで聖四文字の呼吸法を用いることになる。

聖四文字の呼吸においては、ベリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、hy を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する際に喉を空気が通る音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。⁽³⁵⁾

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

(3) 呪歌の力

本儀式においては呪歌を使用する。

ヘブル語においてシーラー hry# (複数形シーローズ twry#) とはシャントを意味する言葉である。『申命記』第31章に説明されるとおり、折りに触れユダヤの民が歌うようにと定められた歌のことだ。

米国の再構成派に属するラビ・シェファール・ゴールドは、シナゴークで歌われる定型化し、形骸化したシャントではなく、恍惚と神秘体験を誘引するユダヤ的シャントを教えている。

彼女は、シャントの恍惚体験は全き献身による観想的空間への移行を可能にすると説明した。観想的沈黙の文脈のなかにおいてシャントの力が深化し、発展するための空間が作り出される。

シャントは『詩編』23章5に示された「溢れる盃」(コシ・ルバヤ hywr yswk) であ

(29) ゲルショム・ショーレム 「初期カバラにおける聖書の神とプロティノスの神の戦い」

『エラノス叢書 10 創造の形態学』 平凡社、1990年、235-236頁。

(30) ゲルショム・ショーレム 「無からの創造と神の自己限定」、『エラノス草書6 一なるものと多なるもの』、平凡社、1991年、94頁。

(31) 前掲書、94、95頁。

(32) 前掲書、113頁 (原注42) 。

(33) Auram Davis, "Jewish Meditation Today and Its Obstacles", in *Meditation from the Heart of Judaism*, Woodstock: Jewish Lights Publishing, 1997, p.85.

(34) ショーレム前掲書、81頁。

(35) Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p.30.

るとも言う。そして、あふれる盃には2種類があり、シャントを唱える者たちのなかに生成される。

第1の盃は、各人の心臓の上にある内的な盃であり、その盃には生命と愛の源泉から途切れることのない流れが注ぎ込まれあふれ出ている。シャントは、その流れと自分自身を再結合する。

第2の盃は、シャントを唱える集団のなかに生成される。唱和するシャントの音と、注意力の共有が盃を生む。その盃には神聖な流れが注ぎ込んでおり、集団に属する誰でも盃からあふれる神聖な流れに触れることができる。⁽³⁶⁾

(4) 呪符等の構成

ヘブル語の神聖名は、文字として書かれた場合でも声に出して歌うのと同等の効力を発する。しかし、シャントを正しく用いると特別な効果が生じるのは前出のとおりである。

『マナセの祈り』に曰く「神は深淵を閉じ、力強く誉れある自らの名で封印した」⁽³⁷⁾

呪符については、『セフェル・ハ・ラツィム』を使用した。⁽³⁸⁾

聖四文字の文字を分解して使われるシャント及びヘブル語の各文字を連唱するシャントは各所で用いられている。⁽³⁹⁾

(5) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群」⁽⁴⁰⁾、言語入力 of 混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽⁴¹⁾）などを利用する。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、L B R Pを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(36) Rabbi Shefa Gold, "That This Song May Be a Witness : The Power of Chant", in *Meditation from the Heart of Judaism*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 1997, p.85.

(37) The Player of Manasseh, in *The Old Testament Pseudepigrapha*, New York : Doubleday, 1985, p.634.

(38) 判りやすいテキストとしては、Steve Savedow, *Sepher Rezial Hemelach : The Book of the Angel Rezial*, York Beach : Samuel Weiser, 2000.

正確を期する場合には、Michael A. Morgan, *SEPHER HA-RAZIM : The Book of the Mysteries*, Chico : Scholars Press, 1983.

(39) 一例として、Joseph Naveh & Shaul Shaked, *Amulets and Magic Bowls : Alamaic Incantations of Late Antiquity*, Jerusalem : The Magnes Press The Hebrew University, 1998, pp.44-49.

(40) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(41) ゲザヴィエ・スロン 『認知神経心理学』 白水社、1995年、63、64頁。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るP Cが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」P Cは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

P Cは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

P Cは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なP Cの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

P Cは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

P Cの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

P Cは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

P C：「I O S の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

P C：「七つの封印を光体に刻印せん。」

P Cは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もP Cの動作に倣う。

P C：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(yytss syrw)

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(ggb gb))

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」()pyt Myr))

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」
(h)y yst syr))

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」
(l)wyd wyy r) gb lt tyb))

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ バク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命と
すべての部分を守護するために。」(hy dydy dx) ss r+yq K)p w))

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。
わが天蓋を封じる。」(styt why whz wy wyx why tp Pw))

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

PCは東を向いて宣言する。

「I O S の神殿に四方位の風を召喚せん。」
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

PCは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風を振るわせる呪歌である。

PC：「エロウイー
(yhl) わが力の根元よ。
ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー
(yb twhtw) n h) w# hm#n 汝が授けし息吹よ。) ⁽⁴²⁾
テホラー・ヒー
(yh hrh+ そは清浄なり。)
アター・バラター
(ht))rb ht) 汝がそを創造せり。)
アター・ヤツアルター
(ht) rcy ht) 汝がそを形成せり。)
アター・ネファクター・ビー
(yb ht) xpn ht) 汝はそを我に吹き寄せる。)
ヴェ・アター・メシャムラー・ブキルビー
(wrqb trm#m ht) w また、汝は我がうちにあるそを監視する。)
ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー
(ynpmm w) l+l d+) ht) w また、汝はいつかそを我より取上げる。)」

全員：「バラフター・ヴェ・ヤツアルター
(ht) rcyw ht))rb 創造と形成)」

PCは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

PC：「ヒー・ネイ・ニー (yn hnh われはここに)
ヒー・ネイ・ニー (yn hnh われはここに)
ヒー・ネイ・アーニー・ヤー (hy yn) hnh われはここに、神の息吹の)
アナ・ホウシーアー ((#why hn) 加護のあらんことを)」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー
((#why hn) hy 息吹の加護あらんこと)」

PCはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヨー」(呼気) 「ヘー」(吸気) 「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

全員：「ヨー」(呼気) 「ヘー」(吸気) 「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱいに、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

これはエロヒムの影だ。

PCは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ボー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ボー (whb yn) われと名前なきもの)

(42) 来る ()wb) の変形 (yb) は、「霊が我がうちに入りたり (xwr yb) btw)」
(『エゼキエル書』2：2) のように使われる。

エロヘイ・イスラーエル (l)r#y yhl) 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (l)r#y yhl) 主の力よ)」

南の壁いっぱい、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

P C は、祭壇の西に回り、西の方向に天蠟宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ボー (whb yn) われと名前なきもの)
ホゥシーアナ (hn) (#why われを助けよ)」

全員：「ホゥシーアナ (hn) (#why われを助けよ)」

P C はヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

全員：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱい、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

P C は、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ボー (whb yn) われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (yn(nk Cr) カナンの地よ)」

全員：「エレッツ・カーナーニー (yn(nk Cr) カナンの地よ)」

北の壁いっぱい、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 荒野の顕現

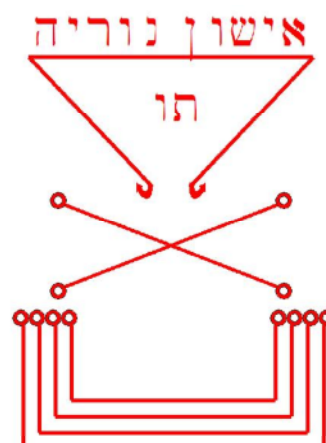
P C は、祭壇の南に回り、北面する。全員が北面する。
P C は祭壇に置かれた一枚のタリズマンを取り出し、両手で掲げて北に向け額より高く掲げる。



P C : 「ハクバー・アフハー (hh) hbqh)⁽⁴³⁾
雷雲よ、来たれ。」
全員 : 「ハクバー・アフハー (hh) hbqh)
雷雲よ、来たれ。」

神殿の四方の壁が消失した。
右側から稲妻に照らされた黒雲が吹き上がる。その中に白い蒸気が噴出し、大地から土埃が巻き上がり、雲の割れた隙間から星が姿を覗かせる。

P C は青いタリズマンを祭壇の左端 (西端) に置く。
P C : 「ヨーホー・ホー・ホー・イヨーホー・ヤーヤー
(hyhy whwy wh wh why)」



P C は祭壇に置かれた二枚目のタリズマンを取り出し、同様の仕草で北に向け掲げる。

P C : 「アアアー・ススー (sss))))⁽⁴⁴⁾
静寂よ、来たれ。」
全員 : 「アアアー・ススー (sss))))
静寂よ、来たれ。」

雷雲が速やかに退き、荒野がひろがる。

P C は赤いタリズマンを祭壇の右端 (東端) に置く。
P C : 「ヨーホーヤー・ヤーホー・イヨーハー・ヒーヤー
・ホーヤー・ヨイハー・ヤーヒー・ハヒーヨー・ホーヒー
(yhwh wyhh yhhw hhyw hywh hwyh hhwy whhy hwhy)」

P C は祭壇の右の炎の柱のタリズマンに右手を触れ言う。
「タムドは男を風から創造し、東に置けり。アアアアアアアア ())))))))」
全員 : 「アアアアアアアア ())))))))」⁽⁴⁵⁾

目に見えない手が祭壇からあなたの胸に届く。冷たい針の先が、へその上の肌に刺さり、微細な点を穿っていく。微かな痛みと熱感が走り、腹部を針が刺突していく。光のロープの内側、光体の肌の上に風の象徴がぬめりを帯びた黄色の紋章として刻み込まれた。

北東の方角の荒野の地平線に炎の柱がたつ。



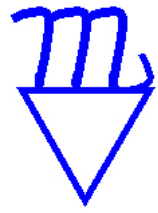
P C は祭壇の左の雲の柱のタリズマンに左手を触れ言う。
「サアドは女を水から創造し、西に置けり。ムムムムムム (mmmmmmm)」
全員 : 「ムムムムムム (mmmmmmm)」

(43) ハクバーの発音は、Haku ↑ ubah ↓ という風に、アフハーの発音は Ahhu ↑ hah ↓ という風に中間にアクセントを置き、鋭く上昇し、語尾が消えるように唱える。

(44) アレフの発音は呼吸が抜けるような風の音を、ザメクの発音は蛇が歯の間から音を出すような歯擦音を用いる。

(45) アレフは風のごとく、メムは唇を閉じ振動させるように、シンは熱い息を吐きながら歯の間に振動させ、ヴァウは重くからだ全体を震わせるように発声する。各文字は7文字重複しており、視覚化した文字が7回明滅する。その際、視覚化と発音とを無理にあわせる必要はない。

目に見えない手が祭壇からあなたの胸に届く。冷たい針の先が、鳩尾、つまり太陽神経叢の上に刺さり、微細な点を穿っていく。微かな痛みと熱感が走り、胸の上を針が刺突していく。光のロープの内側、光体の肌の上にの水の象徴がぬめりを帯びた青色の紋章として刻み込まれた。」
北西の方角の荒野の地平線に雲の柱がたつ。



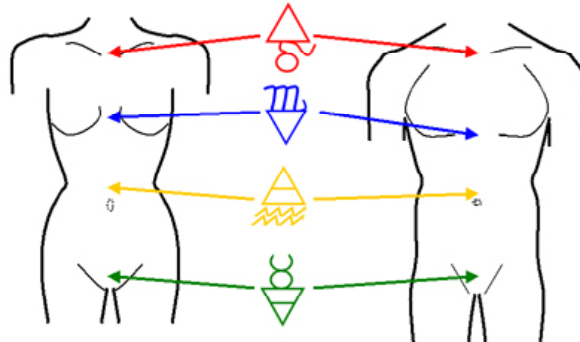
P Cは祭壇の右の炎の柱のタリズマンに右手を触れ言う。
「タックは男を火から創造し、南に置けり。ススススススー(#####)」
全員：「ススススススー(#####)」

目に見えない手が祭壇からあなたの胸に届く。冷たい針の先が、首の始まる肋骨の最上部の中央付近の肌に刺さり、微細な点を穿っていく。微かな痛みと熱感が走り、薄い肌を針が刺突していく。光のロープの内側、光体の胴体の最上部に火の象徴がぬめりを帯びた赤色の紋章として刻み込まれた。」
南の方角の地平線が薄明かりに照らされる。



P Cは祭壇の左の雲の柱のタリズマンに左手を触れ言う。
「シェカグは女を地から創造し、北に置けり。ウウウウウウー(WWWWWWW)」
全員：「ウウウウウウー(WWWWWWW)」

目に見えない手が祭壇からあなたの胸に届く。冷たい針の先が、性器の直上の恥毛の内部の肌に刺さり、微細な点を穿っていく。微かな痛みと熱感が走り、肉厚の肌を針が刺突していく。光のロープの内側、光体の胴体の最下部に地の象徴がぬめりを帯びた緑色の紋章として刻み込まれた。」
北の方角の地平線が炎と雲の柱のある方角を除き濃い闇に閉ざされる。



P Cが高らかに唄い始める。
P C：「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(yd# Cwbq hyx) #y y1 汝が導きにわが望みを主よ。)
キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー
(hyx) #y y1 yd# Cwbq 我が望みを主の導かれるままに。)
シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー
(Cwbq hyx) #y y1 yd# 主の導きに我が望みを。)」

P C：「サティームー・ヴェ・グー・リィアー()y1gw Myts)」
全員：「隠され開示されたり。」

聖化した四方位の風に取り巻かれ、炎と煙の柱のたつ、壮大な荒野において完全に無垢の身となり、証の刻印を四つ刻んだこの身は、春分の秘儀にあずかる。

P Cは、神殿の北に行き、炎と煙の柱を背負い南を向いて言う。

「この荒野は、光と闇の至聖処なり。
今、荒野の上に春分の太陽があり、
光は闇と均衡せんとしている。
われは律法の宰相として、
春分の執行を宣言する。」

8 春分の主祭

P C は、神殿の東側から中央を向いて言う。

P C : 「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)
V o H o I o H o (ヴォー・ホォー・イヨー・ホォー)
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ) 」

P C が宣言する。

P C : 「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3 度周行する。

P C : 「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

P C は、祭壇の東に立ち、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

P C : 「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

P C は、祭壇の西に廻り、東に向かってホルスのサインを行う。

P C : 「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

P C : 「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

P C : 「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員 : 「主よ。われらは自らを捧げん。
わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。
汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員 : 「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

P C は祭壇の北に行き、南を向く。

P C : 「律法の宰相の加護に感謝する。
霊の虚の場所に戻りたまえ。」

P C は再度、祭壇の西に行き、東を向く。

P C : 「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (hw#hy)
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (h#why)
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

P C : 「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。」

主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

P C：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

P Cは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

P C：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

P C：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO A

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MCMXCX

春分儀式 V E O 8 A

Copyrights © All rights reserved I O S 2008

2008年3月16日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンブル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。